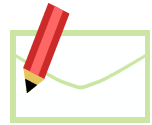


あむーる

鳥根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2017年1月16日発行
第26号

No.26

▶別所さんは、現役の時と補習科で英語を教えました。どうしても獣医になりたいという夢を捨てることが出来ず、現役のときにも合格した大学を蹴って浪人を選びました。学生時代は帰省すると顔を出してくれ、大学での勉強の様子などを知らせてくれていました。年末に就職が決まったと言って報告にやって来てくれました。宇都宮動物園に就職すること。念願だった動物の世話ができてということで、目が輝いていました。今は獣医の国家試験の勉強に打ち込んでいて、この日も一緒に食事をしたんですが、翌日には鳥取に帰って行きました。国家試験、がんばってもらいたいです。宇都宮動物園での再会を約束して別れました。♥♥♥



大学生活について

鳥取大学農学部獣医学科6年 別所麻由子

北高の皆さん、明けましておめでとうございます。年末、八幡先生に会いに北高にお邪魔しました。4階の窓から教室棟の方を見ると、カーテンの隙間から12月30日も関わらず机に向かって勉強するたくさんの3年生の姿が見えました。6年前のことをふと思い出し、あの頃はセンター試験、その後の2次試験の不安と戦っていたような気がします。それから6年経って、現在はまた1ヶ月後の国家試験に向けて猛勉強中です。

さて、前置きが長くなりましたがこの度いつもお世話になっている八幡先生から記事のご依頼をいただきましたので、私が大学で過ごした6年間についてご紹介させていただきます。他の多くの大学と同様に1年次は主に教養科目を学びます。単位取得条件さえ満たせば何でも好きな科目を選択できますから、意外と面白いです。2年次からは専門科目が多くなります。現在の獣医学科は私が入学した当初とカリキュラムが異なりますが（コアカリキュラムができ、4年から5年に進級するには全国统一で実技試験と共用試験を受ける必要がある）、専門科目を1つでも落としたら留年でしたので、とにかく必死に勉強しました。とは言っても、1年から3年までの間は音楽系の部活と野生動物サークルを兼部し、深夜まで練習したり、山に登って調査に参加したりと学問以外に力を入れていましたが、獣医学科は国公立の場合1クラス30人～40人で閉鎖された空間なので、課外活動に参加することは広い人脈を作ることができるのでオススメです！！4年次からは研究室に所属し卒業研究が始まります。研究室は基礎・病態・応用・臨床獣医学とそれぞれに特色がありますが、私は小動物臨床の研究室に所属し、2年半動物病院で様々な症例を近くで見させていただきました。研究室に所属してから最初の2年間は、動物病院にいるか授業かその合間を縫って研究をしているかであっという間に過ぎ去りました。そして、最後の1年間は就職活動と研究発表、国家試験の3本立てです。高校3年間も短いと感じましたが、大学の6年間も気が付くともう終わりに近づいていました。大雑把な大学生活はこのような感じです。「朝起きて大学に行き勉強して帰

宅する」という点では高校と大差ないですが、何よりも大学では自分の時間をたくさん持てる（自由に使える）ことが一番の大きな違いです。大学では自分で選択できる幅がずっと広がります。ですから、様々なことに挑戦し、たくさんの経験をしてほしいと思います。私は、野生動物サークルに入ったことがきっかけで、希少動物や環境汚染などに興味をもち、海外の救護施設に実習に行ったり、他大学の学生と一緒に講演会を企画したりしました。興味があることがあれば、躊躇せず積極的に取り組んでみてください。様々な知識や経験をもっている人からたくさん刺激を受けることができます。これこそが学生の特権です！！大学は受身の姿勢でも卒業することができますが、自分からやりたいことを見つけて取り組んでこそ有意義な時間になると思います。

センター試験を終えて（？）3年生の皆さんは、2次試験に向けて勉強をしているころでしょうか？おそらく、これからの大学生活に思いを馳せていることでしょう。勉強で行き詰まった時は大学に入って何をしてみたいのか、将来どういうことをしてみたいのか、自分の働く姿などを思い浮かべてみてください。きっとモチベーションがあがると思います。強い「思い」は力の源になります！！

最後に、私の大学受験について少しだけお話しします。高校3年生の時は模試をやってもやっても成績は伸びず苦しい思いをしました。そして赤山でもう1年…。現役の時は辛かったけれど、補習科はなぜか楽しかった記憶があります。なぜならば、「やればできる」ということをすごく実感した1年間だったからです。不安でいっぱいになって消極的な気持ちになり中々やる気が出てこない、勉強しても地に足が付いていないからすぐ忘れてしまうという連鎖を繰り返したのが残念ながら私の現役のときの受験でした。私が補習科でやって良かったと思ったことは、新たに多くのものをしようとはせず、模試の見直しや普段の勉強にじっくり取り組んだことです。「やればできる」が増えていきます。少しずつ自信をつけていくこと、そして周りの友人が頑張る姿勢を見て自分の力に変えていくこと、この2つが私にとって必勝法でした。皆さんも自分に合った必勝法を見つけて、最後まで全力で頑張ってください！隣の県から応援しています！！追伸 獣医系大学の進路等でわからないことがあれば相談にのりますので、気軽に連絡してくださいね。他大学のことで分かる範囲でお答えします。

賢者は歴史に学ぶ

～センター試験予言的中！「語義類推」問題出題される！！

センター試験お疲れでした。英語（筆記）は予想通り、第6問に「語義類推」の問題が復活しました。これは、(1) 昨年度の追試に2問出題されたこと（追試は次年度本試験の予告編となっている）、(2) 大学入試センターが公表している「試験問題評価委員会報告書」（3種類）の各所に、復活を求める声を取り上げられていたこと、の2つを根拠に私が講演会や授業で予想していた通りでした。「賢者は歴史に学ぶ」（ビスマルク）と授業でいつも話している通りになりましたね。♥♥♥

- 長文の中での語句や文の類推問題については、日常生活で様々な文章を読む上での必要な力を問うており、継続していただきたい。
- Aの問題で変化があり、未知語句の意味を本文から類推する問題が今年にはなくなった。このことにより、本試験においては、平成26年度まで第3問Aにあったこの形式の問題が完全に姿を消したことになる。未知の語句の意味を文脈から考えさせる問題は、読み取る力を測る上で大切な問題であり、いつか復活することが大いに期待される。
- また、第5問の問4にもあったが、未知語を文脈から考えて正答を導き出す問題が問1に設定されており、これは読み取る力を測る上で大切な問題であると判断する。本試験ではこの問題が完全に姿を消してしまったが、いつか復活することが大いに期待される。